

【ねがいましては】

平成12年11月27日

第130号

KYOWA SCHOOL

「自分歩き」

先日、珠算連盟の東京事務所で、「珠算時流」という、珠算界の小冊子の取材がありました。「これからの珠算界の水先案内人によるシンポジウム」という題目でした。パネラーとして依頼された私は、その資格などないのですが・・

主な内容としては、最近、IT化が騒がれることもあってか、パソコンに関する話題が多くありました。早急の課題として、「ホームページ」を作成すること。新しい教材開発の推進を図ること（共同開発）。珠算の先生たちの小学校への進出に関する土台作り。などでした。

そして、最後に一人一人、「将来の夢や希望を一言。」と言われ、私は「自分歩きのできる子供達であふれる教室にして行きたいです。」と答えました。

その言葉をニコニコしながら話す自分がいたことを、今になってみれば、とてもとても嬉しく思うのです。

教室の玄関に「自分歩きの勉強室」と、あるように・・私の一番の希望は、「子供達が自分の意思で、自分のやり方を見つけ、失敗を恐れず歩きつづけること。」そこから雑草のごとく、ころんでは立ち上がり、ころんでは立ち上がるたくましさを身につけられたらいいかなと思うのです。けっして楽を選ばない、他人との比較がない、・・「自分に勝つこと」「自分に負けないこと」だと思うのです。学校の成績だけではわからない、心の成長です。

私は、このことが「人の土台」ではないかと思います。子供の時にこの土台を大きくたくましく成長させておくことで、やがて大人社会に投げ出された時、堂々と歩けるのではないかと思うのです。

今年も「受験」という戦いが近くにまで迫っています。それぞれが「自分の道」を歩いています。自分と戦っています。小学生たち、特に低学年になればなるほど、「先生、次、何やるんですか。」と尋ねてきます。これは仕方のないことなのかもしれませんが、ふと思うことがあるのです。今の学校のあり方が、「命令される」が主流になっています。これも多人数を抱える教室では、仕方のないことかもしれません。文部省指導の教科書をこなすには、どうしても変化できないのかもしれません。知らないうちに、自分の身の振りを命令されないと歩けなくなります。

私は、「私塾」だからこそ・・の歩き方を、これからも続けてゆくつもりです。

まじめさんが、自分のスピードで、自分の歩き方で、学ぶことの楽しさを発見し、成長し、後輩達を優しいまなざしで指導する姿が、近い将来あたりまえな光景として見られることを、なによりの楽しみとして歩きつづけてゆきたいと思います。

最後になりましたが、シンポジウムの時、最後に付け加えたことがありました。

「自分歩きの教室を、（自分歩きのキャンプも含めて）テレビ局に取材に来てもらうのが夢なんです。」

12月の予定

4日（月）・・検定試験合格発表

22日（金）・・一足早い「クリスマス会」詳しいことは、後日お手紙をわたします。

25日（月）・・学習科「冬期学習会」スタート、詳しいことは、後日お手紙で・・

*年末年始の予定に関しては、出来上がりしだいお渡しします。